トルクメン通信　第４号

2016 年 01 月 20 日　作成

みなさん、こんにちは。上原です。この間、イベントが立て続けにあり、『トルクメン通信』の発行が遅れてしまいました。まあ、いろいろとあったのですが、大きなものは次の通りです。1 つ目は、世耕官房副長官の来訪です。12 月 12 日はトルクメニスタンが永世中立国として国連に承認されてから 20 周年ということで、各国の要人を招いて記念式典が行われました。日本からは世耕官房副長官が来訪されました。記念式典の翌日にはアザディ大学にもいらっしゃり、学生と簡単に懇談会をしました。2 つ目は、12 月 26 日に行われた「日本文化の日」です。「日本文化の日」とは、大学の他学科の学生に日本について紹介するイベントで、毎年 11 月、もしくは 12 月に行われます。このイベントには在留邦人の方も参加されるので、日本語学科の学生の学習成果を披露する場という意味合いもあります。そして 3 つ目は、日本文化の日と同じ日に開催された料理大会です。新年が近いということで、新年に日本で食べるものを紹介しました。あ、そういえば、この料理大会とは別に、日本の料理を紹介するというイベントもありました。合わせて 4 つですね。この間は本当に忙しかったです（＞＜）。よく頑張ったな、自分・・・。これらのイベントの様子は、次号でお伝えします。ちなみに今は、2016 年 9 月より始まる中等教育機関、及び他大学での日本語教育の準備に追われています。

今号では、トルクメン料理について、そして、4 年生の様子をご紹介したいと思います。

● トルクメン料理

謎に包まれた（？）トルクメン料理。僕もトルクメニスタンに来るまで、「一体、トルクメン人は何を食べているんだろう？」とずっと疑問に思っていました。中にはくせのある食べものもありますが、食べてみるとおいしい料理がたくさんあります。僕が食べた料理に限られてしまいますが、トルクメニスタンの料理をいくつかご紹介したいと思います。

写真左がパラウ、写真右がドグラマ

まず、トルクメン料理の代表格である「パラウ」。日本では「ピラフ」としておなじみの料理です。パラウはトルクメニスタンに限らず、中央アジア一帯でよく食されている料理で、一般家庭でもよく食卓に上がるそうです。作り方は、牛肉または鶏肉、たまねぎ、にんじんを多めの油で炒め、水とお米、塩を加えて炊き上がりを待つというシンプルなもの。学生曰く、トルクメニスタンのパラウの特徴は、他の中央アジアの国と比べて油が少なくあっさりしている点にあるんだそうです。日本のピラフ比べるとずいぶん油が多いので、個人的には決して「あっさりしている」とは言えないんじゃないかと思うのですが…。作り方がシンプルなので、素材の味がそのまま生かされた素朴な味なのですが、肉のうまみ、にんじんやたまねぎの甘さがしっかりお米にしみこんでいて、結構箸（スプーン？）がすすみます。特にこちらの先生のご自宅にお邪魔した時に作っていただいたパラウは、「これ、日本でお店出せるんじゃないの？」と思うくらいおいしかったです。もちろんそのまま食べてもおいしいのですが、トマトやキュウリ、にんじんのピクルスと一緒に食べると、油っぽさがなくなり、あっさりと食べられます。

もうひとつ、トルクメニスタンで代表的な料理が「ドグラマ」です。「ペティール」というインドのナンを少し厚くしたようなパンを細かくちぎり、そこに牛や羊、鶏でとったスープを入れて食べる料理です。特に行事のときによく供されるようで、以前ご紹介した「グルバンバイラム」というイスラム教の行事では、屠殺した羊の肉

を使ってドグラマを作ります。ただ、僕は羊の肉があまり好きではないので、ドグラマはちょっと苦手です。

日本のファストフードのように、少しおなかがすいたときにサッと食べられるものもあります。「サモサ」は、さっくりとした三角のパイのような生地の中に肉やホウレンソウ、カボチャが入った食べものです。休み時間になると、学生が近くの店でサモサを買って食べている様子をよく目にします。1つ1マナト（約30円）と値段もリースナブルなので、手軽にパッと食べられる料理として人気があります。作りたてのサモサは、熱々の肉汁がサクサクの生地にしみこんで絶品です！

もう一つが「ドゥネル」というトルコから入ってきた食べもの。日本でもおなじみの「ケバブ」やK○Cの「ツイスター」に似ています。パン、もしくは薄いナンのような生地の中に、キュウリ、トマト、たまねぎ、フライドポテト、牛肉などを入れ、マヨネーズと特製ソース（材料は不明ですw）で味付けをした食べものです。写真にあるような、専用の機械で焼いた肉をそぎ落としながら作ります。たまにくせがありますが、おいしいですし、結構おなかにたまります。また、手際よくテキパキとドゥネルを作っている様子を見るのも面白いです。

写真左がサモサ、写真右がドゥネルに使う肉を焼いているところ

このほかにも、まだまだトルクメニスタンにはおいしい食べ物がたくさんあります。今回だけでは紹介しきれないので、次号以降、また紹介していきたいと思います！

● 4年生の様子

10月、11月と先生が増え、少し余裕が出てきたものの、80分授業が週15コマという少々大変な日々を過ごしてきたのですが、その中でも一番授業が多かったのが4年生。週に6.5コマ（0.5コマ分は隔週の授業です）ありました。4年生は9月からの約1カ月間、中学校や高校で教育実習を行っていた関係で、授業が始まったのが10月上旬から。4年生と初めて会った時のこと今でもはっきりと覚えています。どの学年も授業前はクラスメイトとおしゃべりをしていたり、「先生、先生！lpffpvjhdfdpsd！（一人ずつ話してね…）」と僕に話しかけてきたりと、大体うるさいのですが、4年生は僕が教室に入っても全く反応なし（笑）。お通夜状態でした。授業の最初に日本語学習についてのアンケートをとるのですが、「日本語はおもしろくないです」「漢字は勉強したくありません」などといった他の学年には見られなかった後ろ向きな回答ばかり。正直なのはいいんですが・・・。やっとトルクメンの学生との関係も深まり、授業も軌道に乗ってきた矢先の出来事だったので、面食らったのを覚えています。

写経をしました！

「せんせ～、4年生どうしたらいいですかぁ？トルクメンの学生ってよくわかりませぇ～ん（泣）」と日本の留学から帰ってきた同僚のZ先生に相談した次の日の授業。「え、これが昨日の4年生？！」と思うくらい熱心に日本語の授業に取り組んでいました。「みんなどうしたの？」と聞いたところ、「Z先生が私たちに怒って、もう話さないといいました。だから、先生、私たちは一生懸命日本語を勉強していますとZ先生に言ってください。」と今にも泣きそうな顔をして教えてくれました。そう、このZ先生、今の4年生が1年生だった時からずっと担当されている先生で、言ってみれば4年生にとっての初めての先生であり、日本語の楽しさを教えてくれた「恩師」ともいえる存在だったのです。僕からの相談を受けた後、早速Z先生は4年生の教室に行ってくださったそうです。「私もびっくりしました。1年生や2年生の時に教えたことが全然できなくなってて、だから私、日本語

できるようになるまで話さないって言ったんです」とZ先生。この言葉が効いたのか、それから日本語の授業にやる気を見せるようになったのはいいのですが、やる気になった理由が理由なのでちょっと複雑でしたw。まあ、結果よければすべてよし、なんでしょうが…。Z先生のおかげで、思いがけず僕も悩みが解決してしまい、また別の意味で面食らったのを覚えています。

ただ、授業が進むにつれだんだん日本語学習の楽しさを思い出してきたのか、徐々に日本語に対するやる気も本物（？）になってきました。今期、4年生の「話しことば」と「翻訳」の授業を担当したのですが、話しことばの授業では、文型を導入する前に、「もしみんながこんな状況に置かれていたらなんて言う？」という問いかけをし、今自分の知っている日本語から言える言葉を考える、という活動から始めました。ここでウケを狙ってくる学生が必ず何人かおり、それで盛り上がってしまって授業にならなかったことも何回かありましたが…（4年生の名誉のために申し上げておきますが、ほとんどの授業はしっかり受けていました）。また、日本のドラマを見せ、実際に学習した言葉が使われているのを聞いてみる、などの活動もしてみました。翻訳の授業では、ただ翻訳してもつまらないと思い、「トルクメン人の学生や先生に日本のことを教えよう！」という目的の下、日本の有名な場所について書かれた本をトルクメン語に翻訳し、記事っぽくして日本語学科の教室に掲示するという活動を行いました。これが結構トルクメン人の学生や先生方に好評で、「次はどんな場所を紹介してくれるの？」と先生方にお声がけ頂いたことが何度かありました。それが4年生のモチベーションにつながり、日本語をちゃんとトルクメン語に訳そうと何回も日本語の意味を確認する様子や、トルクメン語を学生同士で校正しあう様子、記事のレイアウトを話しあう様子が見られるようになりました。

その他にも、僕の経験を基に日本の習慣について紹介したり、翻訳の中に出てきた「写経」を実際に体験してみたり、意見文を書いてみたり（これはうまくいきませんでした…）、「わたしのいちばんのおもいで」という題で作文を書いて発表し合ったり（これは学生のいろんな経験や思いを聞けておもしろかったです！）と、いろんなことをしました。おそらく、一番濃い時間を過ごしたのが4年生だったと思います。Z先生もそんな4年生の様子を見て、徐々に彼らと話すようになっていきました。来学期も4年生の授業があるので、次はどんなことをしようかなーと考えている今日この頃です。

翻訳の授業。一番右の写真のような記事を作り、日本の有名な場所を紹介しました。

今号はいろいろ事情があり、発行が遅れてしまいましたが、忙しさの峠は越えたので、また月1回ぐらいのペースで書いていきたいなと思います。メールなどで「トルクメン通信見てますよ！」というお声を頂くこともあり、うれしい限りです！今後も業務上、日本語教育に関する内容が多くなってしまいますが、日本では伝わりきれないトルクメニスタンの姿をお伝えできればと思います。次回もお楽しみに！Sag Boluň!

アザディ名称世界言語大学 上原龍彦

（ご質問・ご感想などは azadyuehara★gmail.com へ。 ★を@に変えてください）